

脱原発

JJ1SXA/池

「草莽ノ微臣田中正造…慎テ奏ス…田間ノ匹夫、敢エテ規ヲ踰エ法ヲ犯シテ鳳駕ニ近前スル、ソノ罪実ニ万死ニ当タレリ。而モ甘ンジテ之ヲ為ス所以ノモノハ…」という直訴状を持って、田中正造は、衆議院議員の立場を捨て、命をかけて明治天皇へ直訴を行おうとしたが、警護に阻まれて未遂に終わった。

直訴状は新聞記者・幸徳秋水が執筆し、その朝、正造が訂正加筆して実印を押したとのこと。

赤坂御所における園遊会における、山本太郎の非常識行為を、この田中正造の直訴を引き合いに出して語る人達がいるが、議員の職を辞し、命をかけての田中正造の行動と、山本太郎の行動とは、天と地の差がある、片や命がけの真剣勝負、片や単なるパフォーマンス、軽佻浮薄な売名行為だ、同列にするのは田中正造氏に失礼である、とんでもない話だ。

激動の明治に生きた、ど根性人間と、戦後生まれの軟弱人間では、人間の土台が違うのは仕方無いだろうが…

「…敢エテ規(のり)ヲ踰(こ)エ法ヲ犯シテ…ソノ罪実(まこと)ニ万死ニ当タレリ…」と死は当然のことながら、万策尽きてのお願いであると、言っている。

案の定、山本太郎は出处進退を自分で決めろと言われ、議員を辞職つもりは毛頭無いと言い切っている、山本太郎の原発反対は、世論迎合のパフォーマンス、それでは原発問題は解決できない、脱原発を唱えれば全てが解決するわけでは無い。

既に、使用済み核燃料が各原発で大量に一時保管されており、これらを何時かは処理しなくてはならない。

その他にも、やらなければいけないことが数多くある、東京電力・福島第一原発の汚染水処理をどう收拾するのか？あるいは同原発の1～6号機の廃炉問題、1機につき40年はかかると言われており、それをどうするか？

福島の除染、原発の再稼働問題、「脱原発」であろうと「原発推進」であろうと、いずれの問題も今後解決しなければならないのだ。

「脱原発」を唱えれば問題が解決されたような錯覚になるとしたら、それは間違いだ、即原発廃止を主張する人達は分かっているのか？

「脱原発」に、鳩山由紀夫、菅直人の両元総理経験者に続き、小泉純一郎・元総理が名乗りを上げた、小泉・元総理は原発を推進するのは無責任と言っているが、「脱原発」も「原発推進」も、それを主張する人達は共に、現在と、将来のビジョンをしっかりと持って、それが実現可能であることを理論的に説明できなければ、単なる理想論で、軽々しく無責任という言葉を使うべきでは無いと思うが hw ?

(6,Nov,2013 記)